

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所は介護保険の法令を理解し、事業所母体である法人の「陽気ぐらし」「感謝慎みたすけあい」を理念としている。職員はこれを共有し、利用者、職員は共にたすけあい、なかよく暮らせるよう理念の実現に努めている。	理念について職員会で話し合いをもち、日常の介護を見直しました。話し合いのあと、介護に対する変化が見られ、今まで以上に利用者に対しての声かけや利用者にあった介護方法を工夫するなど、実践につなげています。又、職員間にもたすけあいの理念が活かされ、働きやすい環境があります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りへの協力(本年はコロナの為不参加)や地域の文化祭への参加をしている。また春には地域の獅子舞いが来てくれる。	地域の春・秋のお祭りは参加できませんでした。お祝いのお饅頭をいただくなどつながりはあります。地区文化祭にみんなで作成した作品を出品できました。散歩時の挨拶や近辺の果樹農家から果物を頂くなど、日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	市内の中学校の福祉体験学習の受け入れを継続し、認知症や介護施設の事を知ってもらえる機会を作っている。(コロナの為本年は中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、自治会、民生委員、ボランティア、地域包括、ご家族の方々に参加頂き、開催している。	現在は定期的開催していますが、コロナの関係で開催できない時も活動報告を送付し、電話等で意見を聞いてきました。推進委員の自治会長さんからは、ボランティアの紹介や文化祭への出品について情報をいただくなど、サービスの向上にいかされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等で地域包括センターの方と現況を話し、相談している。又必要に応じてその都度相談させて頂いている。	地域包括センターの職員だけでなく、市の担当者にも、身寄りのない利用者やトラブルがあった時等、必要に応じて相談するなど協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内で勉強会を行うと共に、「身体拘束禁止に関わる指針」を定めて、事務所内に掲示し、すべての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の理解に努めている。日中は玄関の施錠はしていない。	「身体拘束禁止に関わる指針」には、身体拘束の具体的な行為等とあわせて、日常ケアにおける留意点が具体的に記載されています。毎年身体拘束や虐待防止について具体的な事例をあげて研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記の施設内研修及び「身体拘束禁止に関わる指針」の掲示に加えて、身体拘束ゼロ、虐待防止のマニュアルを事務所に設置すると共に、運営推進会議内で「身体拘束適正会議」を開催して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は勉強会で学び、管理者は研修を受け必要な人には活用し、また、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、十分な説明をし、納得された上で印を押して頂き、契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から、気兼ねなく意見が聞けるよう意見箱を設置している。	隔月に運営状況と様子のわかる写真を家族に送付して、意見や質問など気軽に出せるよう配慮をしています。意見や要望については、面会時等に聞くようにしており、コロナ禍の際の面会のことなど、意見を参考にして実施に活かしてきました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時やヘルパー会(職員会議)時に出た意見や提案は、管理者や法人代表者へ報告している。その他随時相談し、運営に反映している。	年1回管理者との個人面談があり、職員の要望を聞く機会を設けています。日常的には、職員会議等で意見や提案を出し、必要な場所への手すりの設置や、会議記録・伝達事項など見落とさないように、職員の個人ファイルを作る等、具体的に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用時に、出来るだけ勤務しやすいよう、また、やりがいを持って勤務できるよう話を聞くようにし、雇用後も、働きやすい環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者、職員がよりよいケアを提供できるよう、継続研修を年間1回以上受ける事を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今までは地域の行事などで近隣の同業者との交流の機会が少なかったが、コロナ禍以後は出来ずにいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の安心と、関係づくりで一番大切な時期なので、入居前に面会してご本人の話を直接お聞きし、持ち帰って職員会議で話し合い、ニーズに応えられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み時と入所時に現状(困りごとや要望)を用紙に記入して頂いている。また入所される際には面接を行い、お話をし初期の要望を把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族、ご本人の事情をよくお聞きし、当施設内で出来るサービスを検討している。特に他施設や病院からの入居の場合は、担当であったケアマネなどからの申し送りを詳しく検討して、サービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームの理念にあるように、職員と利用者が共に喜びをもって過ごし、お互いにたすけあい、お互いに感謝し合いながら、日々を大切に過ごせるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	介護計画の説明や相談をご家族にお話している。また介護用品を購入する時や、外出、通院される際はご家族に連絡し、ご家族に購入して頂いたり、送迎して頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時に本人や家族から、友人や頼りになる知人の情報をお聞きしている。面会などに制限を設けず、入所前の関係を入所後も継続出来るよう支援している。コロナ対策を継続しながらも、状況に応じて面会や外出を支援している。	コロナ感染予防に配慮しながら、現在はどなたでも面会ができています。友人や親戚、孫等の面会、家族等の協力を得ながらの外食、実家や家に行くなど馴染みの関係継続を支援しています。調査当日もお店の協力を得て、なじみの美容院へ行かれる方がいました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共に生活する者同士孤立することなく、関わり合いを持てるよう支援している。事業所理念の下、陽気ぐらしの実現に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	要望があれば、契約終了後もご相談等に応じている。また解約時にその旨をお伝えすることで、退所後もフォローできるような努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本人及びご家族から聞き取りを行って、現状に対する思いや要望、希望をまとめて検討している。半年毎に更新し、見直している。	ほとんどの方が意思表示ができるので、日頃の生活の中で思いや希望を聞いています。思いが出せない方は、今までのホームの暮らしぶりから判断しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、家族、関係者から情報を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員が日々の生活の中で観察すると共に、必要に応じて本人や家族と話し、現状の把握に努めている。毎日の引継ぎ時、及び職員会議の時に情報を共有し、適切なケアが出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	少なくとも半年に1回は担当者会を行い、モニタリングを行うと共に、毎月の職員会議や日々の引継ぎの時に、各利用者の希望や思いに即した現状の課題とケアのあり方について話し合っている。	日々の引継ぎ会や職員会議で、日頃の利用者の状況を話し合っています。支援経過記録、モニタリング総括表がきちんと整備されています。半年毎の担当者会議で家族に来訪してもらって話し合い、意見等を反映して介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各利用者の経過記録と申し送りノートで情報を共有し、ケアへの実践に生かし、またそれを計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	各利用者の状況とニーズをよく見極め、ご家族とも相談しながら、より良いサービスが出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ちぎり絵や塗り絵などを作り、地域の文化祭に出品させて頂いている。季節の行事には地域のボランティアの音楽や催し物を活用しているが、コロナ禍以後は職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、ご利用者、ご家族の希望に沿えるよう支援している。また地域の医師に事業所の主治医を務めていただき、定期的な往診や相談のほか、緊急時に来ていただけることで、ご利用者やご家族に安心していただけている。	入居時にかかりつけ医を確認して、希望に沿った対応をしています。今はほとんどの方が協力医の往診を受けています。医療連携体制をとって週1回の訪問看護や緊急対応の体制ができています。歯科は、協力医の往診と今までのかかりつけ医の往診や通院等を支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所契約の訪問看護ステーションより、月に4回の訪問を受け健康チェックをして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院関係者やご家族と連絡を取り合い、情報の交換等、ご利用者やご家族が安心して治療できるよう努めている。また協力医療機関には、そうした場合に備えて対応して頂けるよう関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当施設では看取り介護は行っていないが、重度化に対し、その都度本人や家族に報告と相談を行う。必要に応じて併設の施設や医療機関を利用することで対応している。	入居時に、重度化した場合の対応について家族等に説明をしています。移動や食事が自分でできなくなるなど、日常の様子をみながら家族等に状況を話して、今後の対応を相談しています。他施設への変更や関係施設の利用などの支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを事務室に設置している。施設内で緊急対応の心配がある時は、職員会議等で注意点や対応策を話し合い、備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所内での訓練やシミュレーションの他、運営推進会議で火災の他起こりうる自然災害と災害時の地域の協力体制について話し合いを持ち、災害時には協力していただける事になっている。	5月・11月に通報訓練や火災想定避難訓練を実施し、火災訓練時には消防署の職員から注意事項等の話を聞きました。危険区域外にあり、地域との協力体制もできています。現在、今後義務化される業務継続計画を作成しています。	訓練を実施した際の見直しや改善点について記録に残し、さらに有効な訓練を実施することを期待します。また、リスクを把握・想定して対策を検討されることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者を尊重し、一人ひとりに合った言葉かけや対応ができるよう努めている。また誇りやプライバシーを損ねないケアが出来るよう、ヘルパー会や日常の申し送り時に意見を出し、職員間で共有できるよう努めている。	利用者を尊重するということはどうしたらよいか、スピーチロックについてなど職員間で話し合っています。職場の状況を見て気になった点がある時や、安全のための注意や禁止する際の言葉使いなど、管理者が職員に話をして職員が振り返る機会を作って対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉かけなどで、ご本人の思いや、希望を引き出せるよう工夫し、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	これまでの暮らしを把握し、できるだけ一人ひとりの生活リズムや希望に沿って、その人らしく暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしさを尊重し、言葉かけや洋服選びなどを支援している。毎月理容師さんに訪問散髪をしてもらっている。美容院へ行かれる利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べる事が困難にならないよう、調理や食器を一人ひとりに合わせている。また皮むきや、食器拭き、片付けなど、それぞれができることを職員と一緒にやっている。	日常的に、何が食べたいかなど要望を聞くようにしています。赤飯やケーキなどの誕生日献立、クリスマス、年末年始の行事食など、計画を立てて食事を楽しむように努めています。野菜の皮むき、片付けなどもできる範囲で一緒にやっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各利用者の趣向を考慮しながら、必要な水分や栄養を確保できるよう心がけると共に、食事の状況を引き継ぎ時に報告するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行う。いつまでも美味しく食事が出来るよう、言葉かけや見守りをしている。状況によって介助をし、清潔、機能維持に努めている。また必要に応じて歯科往診を利用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	それぞれの排泄パターンを職員全員が把握し、失敗が少なくなるよう言葉がけや介助をしている。夜間は、転倒の危険のある方はポータブルトイレを使用している。	日々記録をつけ、それぞれのパターンを把握しており、状況を見ながらトイレへの声かけや誘導、見守りなどの支援をしています。日中はできるだけトイレでの排泄、夜間は利用者に合わせてポータブルトイレやオムツを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に応じた食事形態の工夫、水分補給、体操など、自然に排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回入浴するようにしている。ご本人の体調に合わせて入れるよう支援している。	週5日風呂の準備をして、1週間に2回は入浴できるように、体調や気分をみながら声をかけています。入浴拒否の利用者には、気持ちよく入ってもらえるように工夫しています。時折入浴剤を使用して、より入浴が楽しめるように配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活のリズム、状況に応じ、寝具を含め、その人が気持ちよく休息や睡眠をとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師や薬局からの説明、資料をもとに、個々にファイルを作成している。職員全員が把握し、また学ぶ機会を持ち、理解に努めている。変化がある場合は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯、掃除、食事の準備等の中で出来ることをして頂き、生活の張り合いや共同生活の役割を持って過ごして頂けるよう努めている。空いた時間には塗り絵や日記を書いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気を見てお散歩に出かけたり、野外でお茶を飲んだりしている。買い物や帰宅などについては家族と相談して行っているが、感染症対策として特に必要な場合のみに制限している。	事業所の周りは自然が多いので、周辺の散歩やお花見等を実施しています。春は、飯田市内の桜の名所等をめぐるバスハイク、秋は郡内の紅葉狩りをしておやつを食べてくるなど楽しんできました。感染症に気を付けながら、家族の協力で買い物や外出ができるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は、ご本人がお金を持つことの大切さを理解している。ご本人やご家族の意向、現状を話し合い、ご本人の希望と認知症状にあわせて個別に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り次ぎを希望された場合には、家族の要望をお聞きした上で対応している。また、絵手紙を描き、ご家族や友人に送る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間にはご自分で作成された切り絵や折り紙を飾っている。大きな窓を設けて庭や山並みが見えるよう、立地環境を生かして季節を感じて頂いている。	リビングは大きなガラス戸からベランダにつながり、敷地内の自然の様子が見渡せて季節を感じるができます。暖房はガスストーブを使い、乾燥にも注意を払って快適に過ごせるように配慮しています。みんなで作った作品や絵手紙を掲示してあったり、トイレ等わかりやすく表示がしてあったり、居心地よく安心して過ごせるように工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの席を決めて座って頂いているが、様子をみて席替えをしたり、机のレイアウトを替えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれに合った居室であるよう配慮している。また、好みのものや、ご自分で作った作品を飾ったり、使い慣れた物を置くことで、居心地よく過ごせるよう心がけている。	テレビや人形、写真、お位牌、作品など使い慣れたものや好みのものを飾るなど、それぞれが居心地よく過ごせるような居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	部屋割りや共用空間での座席などを、身体機能やそれぞれの性格を鑑みて、一人ひとりが安心して安全に過ごせる事を第一に考え配慮している。		